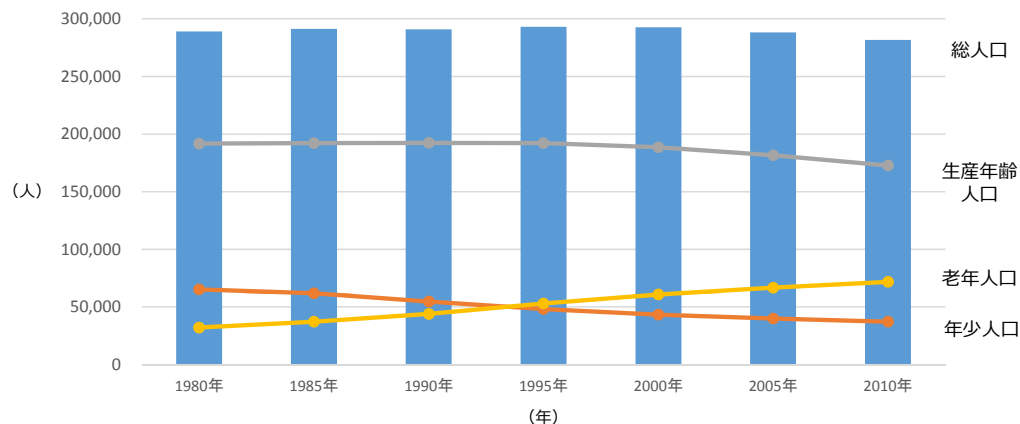


長岡市のこれまでの人口の推移

1. 総人口・年齢3区分の人口の推移

- 5年ごとに行われる国勢調査結果によると、1995年の29.3万人をピークに、その後は人口減少が続いています。
- 年少人口は、減少傾向が続き、1995年からは、老年人口を下回り続けています。
- 生産年齢人口は、1995年に減少に転じて以降、現在まで減少傾向が続いています。
- 老年人口は一貫して増加を続けています。

＜総人口及び年齢3区分の人口の推移＞

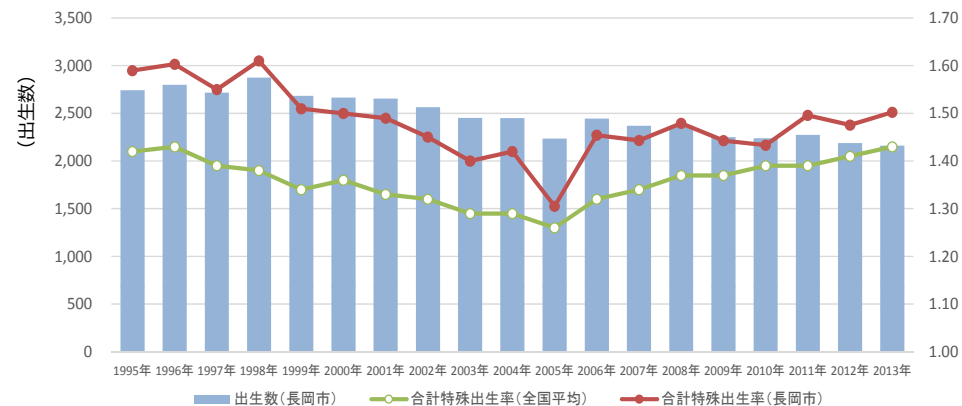


	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
総数(人)	289,234	291,251	290,923	293,250	292,887	288,457	282,674
年少人口 (0～14歳)	人数(人)	65,300	61,973	54,710	48,124	43,387	37,312
	総数に占める割合	22.6%	21.3%	18.8%	16.4%	14.8%	13.2%
生産年齢人口 (15～64歳)	人数(人)	191,826	192,079	192,279	192,145	188,621	172,717
	総数に占める割合	66.3%	65.9%	66.1%	65.5%	64.4%	61.1%
老年人口 (65歳以上)	人数(人)	32,103	37,199	43,934	52,974	60,773	71,710
	総数に占める割合	11.1%	12.8%	15.1%	18.1%	20.8%	25.4%
年齢不詳	人数(人)	5	0	0	7	106	935

【出典】総務省「国勢調査」(1980～2010年)に基づき作成

2. 出生数と合計特殊出生率の推移

- 合計特殊出生率は、常に全国平均を上回って推移している中で、2005年の1.31を底に、近年増加傾向にあり、2013年には1.50となっています。
- 一方、出生数に関しては、1995年で2,742人であったものが、2013年には2,161人(1995年比で約80%)まで減少しています。



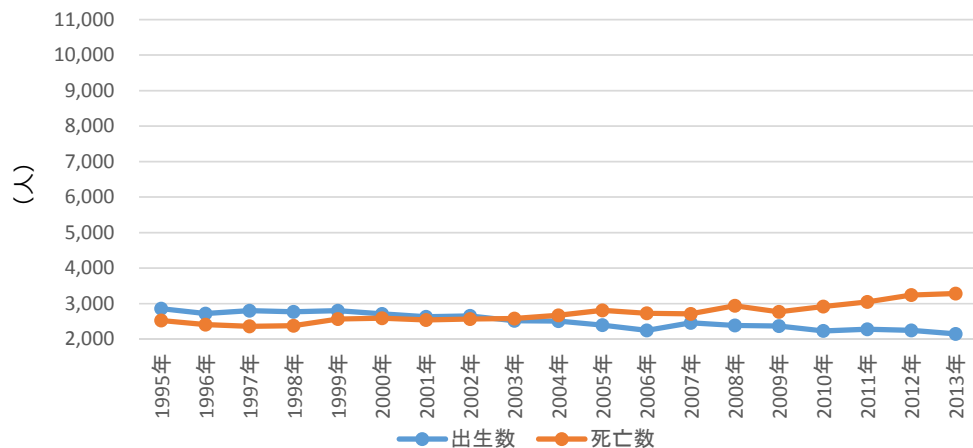
	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
出生数(人)	長岡市	2,742	2,799	2,718	2,875	2,683	2,667
合計特殊出生率	全国平均	1.42	1.43	1.39	1.38	1.34	1.36
	長岡市	1.59	1.60	1.55	1.61	1.51	1.50
	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	
出生数(人)	長岡市	2,563	2,452	2,450	2,236	2,444	2,370
合計特殊出生率	全国平均	1.32	1.29	1.29	1.26	1.32	1.34
	長岡市	1.45	1.40	1.42	1.31	1.45	1.44
	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	
出生数(人)	長岡市	2,367	2,250	2,239	2,274	2,188	2,161
合計特殊出生率	全国平均	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43
	長岡市	1.48	1.44	1.43	1.50	1.48	1.50

【出典】厚生労働省「人口動態調査」に基づき作成

3. 自然増減（出生数・死亡数）の推移

- ▶ 出生率低下・母親世代人口減少の影響による出生数の減少傾向と、老年人口層の増加に伴う死亡数の増加傾向の結果、2003年以降は、死亡数が出生数を上回っています。

＜自然増減（出生数・死亡数）の推移＞



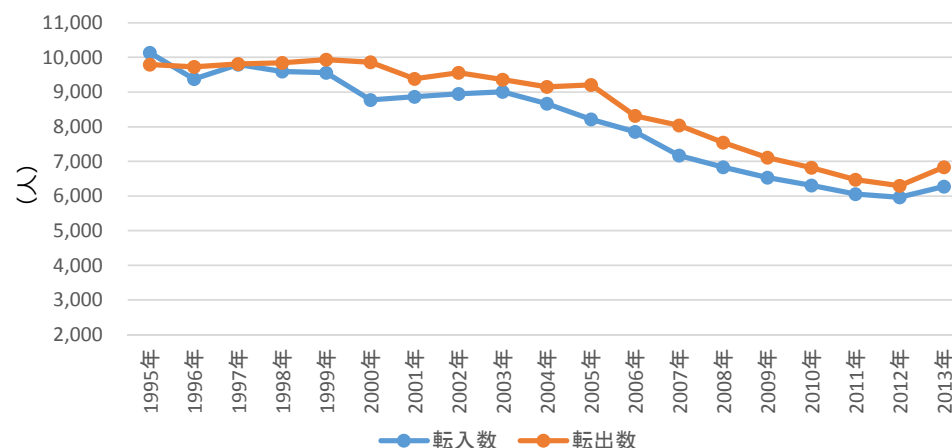
(単位：人)

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
出生数	2,857	2,723	2,806	2,770	2,803	2,712	2,632	2,655	2,519	2,505
死亡数	2,527	2,408	2,359	2,378	2,569	2,587	2,539	2,570	2,581	2,672
	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	
出生数	2,391	2,248	2,457	2,387	2,368	2,233	2,282	2,250	2,151	
死亡数	2,807	2,727	2,717	2,944	2,770	2,918	3,047	3,246	3,281	

4. 社会増減（転入数・転出数）の推移

- ▶ 転入・転出ともに年による変動はあるものの、1996年以降、ほぼ一貫して転出数が転入数を上回る「社会減」の傾向が続いています。

＜社会増減（転入数・転出数）の推移＞



(単位：人)

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
転入数	10,134	9,380	9,793	9,595	9,558	8,777	8,869	8,951	9,008	8,669
転出数	9,794	9,732	9,813	9,846	9,939	9,860	9,386	9,562	9,356	9,147
	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	
転入数	8,217	7,855	7,168	6,833	6,529	6,305	6,055	5,960	6,269	
転出数	9,207	8,318	8,036	7,543	7,110	6,815	6,477	6,300	6,837	

＜自然増減と社会増減の推移＞

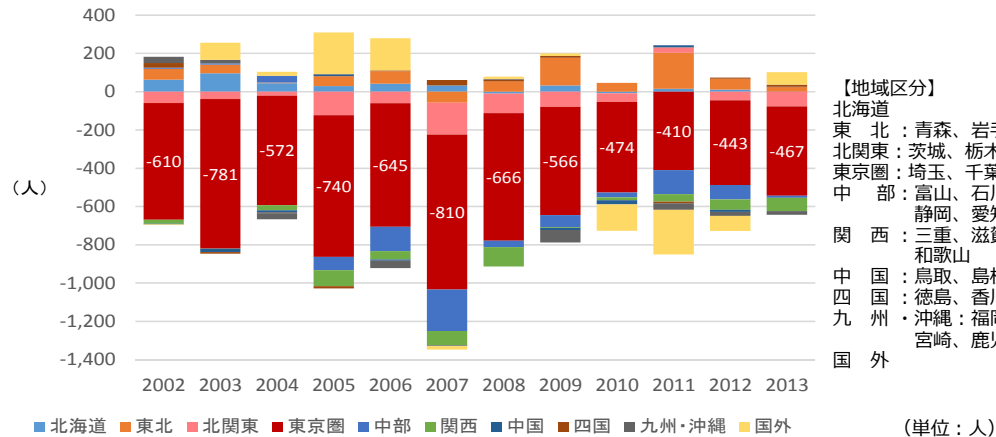
(単位：人)

	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
自然増減	330	315	447	392	234	125	93	85	-62	-167	-416	-479	-260	-557	-402	-685	-765	-996	-1,130
社会増減	340	-352	-20	-251	-381	-1,083	-517	-611	-348	-478	-990	-463	-868	-710	-581	-510	-422	-340	-568
総人口増減	670	-37	427	141	-147	-958	-424	-526	-410	-645	-1,406	-942	-1,128	-1,267	-983	-1,195	-1,187	-1,336	-1,698

【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」（1995～2013年）に基づき作成

5. 転入・転出のブロック別移動者数（県外）

- ▶ 近年の県外への地域ブロック別人口移動状況では、東京圏への転出超過数が多く、北関東も転出超過となっています。一方、2008年以降、東北から転入超過となっています。
- ▶ 年齢別の社会増減の状況を踏まえると、高校、大学・短大等卒業後の市外への進学、就職先の相当部分を、東京圏が占めていることが示唆されます。

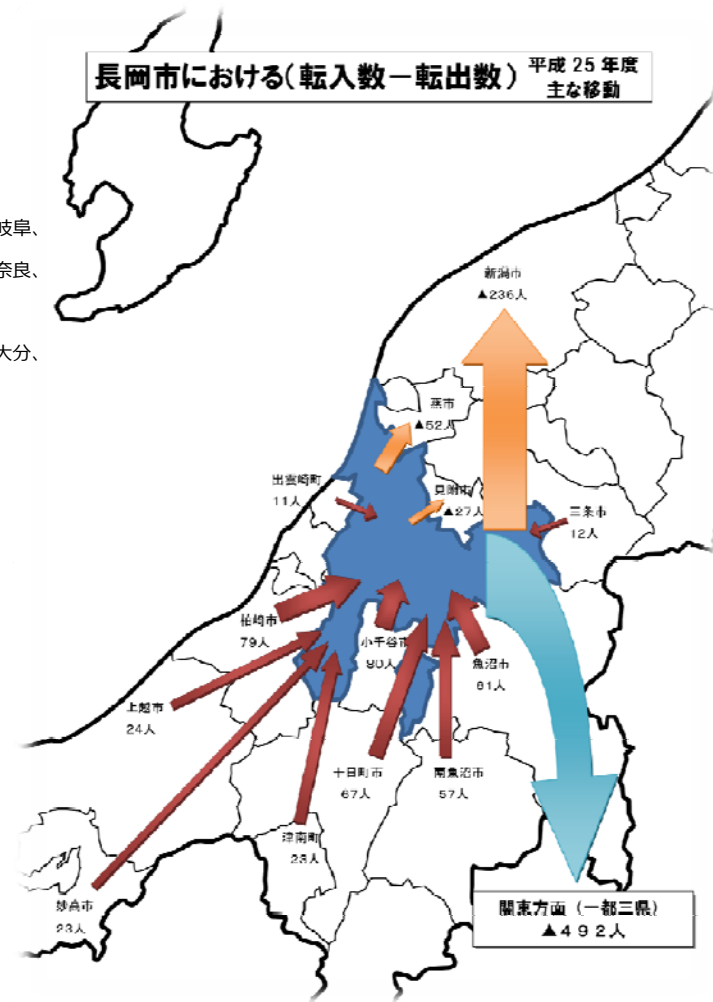


		2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
総数	転入	4,610	4,674	4,407	4,533	4,498	3,958	3,782	3,792	3,499	3,305	3,206	3,315
	転出	5,125	5,265	4,971	5,251	5,140	5,245	4,617	4,380	4,179	3,912	3,861	3,856
	差引	-515	-591	-564	-718	-642	-1,287	-835	-588	-680	-607	-655	-541
北海道	転入	199	209	160	159	169	127	93	110	95	83	77	74
	転出	136	113	115	129	127	94	103	78	103	69	67	75
	差引	63	96	45	30	42	33	-10	32	-8	14	10	-1
東北	転入	421	417	320	395	413	364	359	432	343	436	361	314
	転出	364	372	318	344	347	422	304	287	297	247	303	290
	差引	57	45	2	51	66	-58	55	145	46	189	58	24
北関東	転入	348	367	352	306	321	270	270	287	237	262	248	238
	転出	407	405	373	429	382	436	372	366	282	234	293	314
	差引	-59	-38	-21	-123	-61	-166	-102	-79	-45	28	-45	-76
東京圏	転入	1,679	1,541	1,611	1,654	1,542	1,428	1,402	1,374	1,312	1,313	1,283	1,272
	転出	2,289	2,322	2,183	2,394	2,187	2,238	2,068	1,940	1,786	1,723	1,726	1,739
	差引	-610	-781	-572	-740	-645	-810	-666	-566	-474	-410	-443	-467
中部	転入	715	761	724	683	620	530	515	500	490	364	411	484
	転出	710	754	688	753	747	747	549	563	515	489	486	494
	差引	5	7	36	-70	-127	-217	-34	-63	-25	-125	-75	-10
関西	転入	263	253	253	238	223	196	152	183	184	174	161	177
	転出	283	255	280	321	266	271	254	186	199	214	215	247
	差引	-20	-2	-27	-83	-43	-75	-102	-3	-15	-40	-54	-70
中国	転入	57	56	59	65	80	83	63	55	39	54	41	59
	転出	62	74	71	57	88	83	62	67	61	42	52	58
	差引	-5	-18	-12	8	-8	0	1	-12	-22	12	-11	1
四国	転入	47	32	31	22	44	50	35	43	38	28	21	30
	転出	22	40	34	34	40	22	27	34	38	36	16	18
	差引	25	-8	-3	-12	4	28	8	9	0	-8	5	12
九州・沖縄	転入	97	110	83	104	85	93	110	79	91	80	74	64
	転出	65	92	115	100	123	97	108	144	91	114	94	83
	差引	32	18	-32	4	-38	-4	2	-65	0	-34	-20	-19
国外	転入	784	928	814	907	1,001	817	783	729	670	511	529	603
	転出	787	838	794	690	833	835	770	715	807	744	609	538
	差引	-3	90	20	217	168	-18	13	14	-137	-233	-80	65

【出典】新潟県人口移動調査に基づき作成

6. 転入・転出のブロック別移動者数（県内）

- ▶ 2013年度（平成25年度）の県内の転入・転出状況では、新潟市への転出超過となっています。
- ▶ 一方、柏崎市、魚沼市、小千谷市、十日町市、南魚沼市といった市からは転入超過となっています。



【出典】長岡市住民基本台帳に基づき作成